

所属・氏名（ 総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 氏名：福岡 達之 ）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) Comparison of the Iowa Oral Performance Instrument and JMS tongue pressure measurement device.	共著	2021 年	J Dental Sci 16: 214-219	論文の概要：米国製 IOPI と JMS 舌圧測定器で測定した最大舌圧値の相関を解析した。 (Yoshikawa M, Fukuoka T , Mori T, et al)
2 (学術論文) Association Between Active Gait Training for Severely Disabled Patients with Nasogastric Tube Feeding or Gastrostomy and Recovery of Oral Feeding: A Retrospective Cohort Study.	共著	2020 年	Clin Interv Aging 15:1963-1970	論文の概要：積極的な歩行訓練が経管栄養患者の経口摂取獲得に及ぼす影響について後方視的に検討した。(Arai H, Takeuchi J, Nozoe M, Fukuoka T , et al)
3 (学術論文) Tongue Pressure Measurement and Videofluoroscopic Study of Swallowing in Patients with Parkinson's Disease. 《筆頭論文》	共著	2019 年	Dysphagia 34: 80-88	論文の概要：パーキンソン病患者の嚥下時舌圧について、舌圧センサシートを用いて客観的に測定し、舌口蓋接触様相の特徴を明らかにした。 (Fukuoka T , Ono T, Hori K, et al)
4 (学術論文) Secondary Mania after Cerebral Infarction in the Recovery Phase: Case Report.	共著	2018 年	Prog Rehabil Med 3: 1-8	論文の概要：躁状態を呈した失語症患者のリハビリテーション経過を報告した。(Arai H, Matsumoto S, Sekiyama R, Fukuoka T)
5 (学術論文) Change in tongue pressure in patients with head and neck cancer after surgical resection.	共著	2017 年	Odontology 105: 494-503	論文の概要：頭頸部癌術後患者の最大舌圧値を測定し、切除部位、Stage、栄養、嚥下障害重症度との関連について報告した。 (Hasegawa Y, Sugahara K, Fukuoka T , et al)
6 (学術論文) Effect of the effortful swallow and the mendelsohn maneuver on tongue pressure production against the hard palate. 《筆頭論文》	共著	2013 年	Dysphagia 28: 539-547	論文の概要：Effortful Swallow を行った時の嚥下時舌圧を 5 箇所感圧点を有する舌圧センサシートシステムにより測定し、舌口蓋接触様相の特徴を明らかにした。 (Fukuoka T , Ono T, Hori K, et al)
7 (著書) 標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学	共著	2021 年	医学書院	著書全体の概要：摂食嚥下障害の基礎知識から臨床に有用な情報を網羅した。(担当ページ数：7 頁)(椎名英貴, 倉智雅子 編集)
8 (著書) 第 4 分野 摂食嚥下リハビリテーションの介入 I 口腔ケア・間接訓練 Ver.3	共著	2020 年	医歯薬出版	著書全体の概要：日本摂食嚥下リハビリテーション学会 e ラーニング対応テキスト。(担当ページ数：5 頁)(日本摂食嚥下リハビリテーション学会 編集)
9 (著書) 言語聴覚士ドリルプラス 摂食嚥下障害	単著	2019 年	診断と治療社	著書全体の概要：摂食嚥下障害の基礎知識に関するドリル問題集。(担当ページ数：80 頁)(福岡達之 著, 大塚裕一 編集)
10 (著書) 言語聴覚士のための摂食嚥下リハビリテーション Q&A -臨床が分かる 50 のヒント-	共著	2016 年	協同医書出版	著書全体の概要：摂食嚥下障害の臨床分かる 50 の項目を取り上げて解説した。担当ページ数：169 頁(福岡達之 編著)